

韓 国 語

【単位数：1単位，授業13コマ（定期試験含まず）】

1 科目責任者

平田亜紀 准教授（外国語）

科目担当者

呉 根植（非常勤講師）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅰ-2-c, Ⅰ-5-c, Ⅱ-1-c, Ⅱ-2-c）

- ① コンピテンスである“コミュニケーション”を理解し，“プロフェッショナリズム”を身に付ける。
- ② 以下のような点を理解することで，語学学習を通して，個や集団に及ぼす文化・慣習による影響（コミュニケーションの在り方等）への理解が深まることがねらいである。（1）他者の多様な価値観を尊重できること，（2）患者と家族の心理・社会的背景を理解し，全人的に対応できること，（3）患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できること（3）心理・生活・文化的背景を適切に把握するための，支持的・共感的なコミュニケーションをとることができること。

（２）学修目標

- ① 患者及びその家族が有する価値観や社会的・文化的背景が多様であることを理解し，その多様性を踏まえて状況に応じた柔軟な対応をとることができる。
- ② 良好な医療者－患者関係を構築するための基礎的なコミュニケーション能力として，本科目で扱う外国語を母語とする患者に対し，簡単な挨拶や配慮を伴う声かけを行うことができる。
- ③ 言語・文化・慣習の違いによって，医療現場におけるコミュニケーションの方法や留意点が変わることを，具体的な事例を挙げて説明することができる。
- ④ ハングルの読み書きの基礎を習得し，テキストの読解を通して基本的な語彙・表現を身につけ，韓国語で書かれた簡単な文章の内容を理解することができる。
- ⑤ 旅行や日常生活の場面で頻繁に用いられる基本表現を用い，簡単なやり取りなど初歩的な会話を行うことができる。
- ⑥ 日本文化との比較を通して隣国である韓国の文化的特徴や社会的背景を理解し，文化の多様性及び多様な価値観を尊重する姿勢を身につけることができる。

3 成績の判定・評価

（１）総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
平常点	○	40%	語彙・文法の練習問題，実技試験，提出物など 【再評価について】 やむを得ない理由で欠席した場合は，科目責任者と教科担当者の両名へ問合わせる。
定期試験	○	60%	記述式の筆記試験
態度	○	—	遅刻・欠席を含め受講態度不良の場合は，10%を限度に減点する。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を実施する。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

毎回実施する小テスト及びレポートについては、授業内で随時解説を行い、学生の理解を確認しながら学修内容の定着を図る。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
三訂版 バランセ韓国語初級	金京子/喜多恵美子	朝日出版社	韓国語を学習する初学者を対象に、発音・文字(ハングル)から基礎文法、基本語彙までを無理なく段階的に学べる内容であるため。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 (말의 가교) (改訂版)	生越直樹/曹喜徹	白帝社	韓国語学習に不可欠な文法事項について、用例を交えながら丁寧に解説しており、初学者の理解を補助する参考資料として有用であるため。

6 準備学習(予習・復習)

- 本科目では予習は求めないが、復習を重視する。授業時間内にやり残した課題や十分に理解できなかった内容については必ず復習しておくこと。それでも不明点がある場合は、早めに質問すること。
- 語彙の習得には継続的な復習が不可欠である。こまめに復習を行い、語彙に触れる機会を増やすこと(1コマあたり約0.5時間を目安とする)。
- ほぼ毎週実施する小テストは成績評価における配点の比重が大きいため、十分に準備して臨むこと(1コマあたり約40分を目安とする)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的な文字(ハングル)の読み方及び発音について、授業内で反復練習を行う。あわせて、文法事項を中心とした演習課題に取り組み、その理解の要点について解説することを授業の中心とする。少人数制によるきめ細かな語学指導を行い、受講生一人ひとりの理解度に応じた指導を行う。授業には、教科書及び前週までに配布したハンドアウトを必ず持参すること。なお、AB組の分け方は他科目の区分とは一致しないため、履修にあたって注意すること。

(2) 講義の内容

韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、基礎的な文法及び語彙の学習、並びに初歩的な言語運用の実践を通して、韓国語圏の文化やものの見方・考え方への理解を深める。こうした学修過程を通じて、多様な背景をもつ人々との協働に必要な姿勢を養うとともに、多文化に対して開かれた寛容な態度や、想定外の状況にも対応できる柔軟性の涵養を目指す。